子ども・子育て支援事業計画の策定を報告　3/23（月）

四国中央市子ども・子育て会議の宮崎政夫委員長と星川光代副委員長が市長室を訪れ、「四国中央市子ども・子育て支援事業計画」の策定を市長に報告しました。この計画は子ども・子育てに関するさまざまな施策を総合的に進めるための計画として位置づけられるものです。

三島ドリームが中四国少年軟式野球王座選手権大会で３位入賞！　3/24（火）

少年野球チーム三島ドリーム（妻鳥真実監督）の選手らが、広島県三原市などで行われた中四国少年軟式野球友好親善交流会第16回王座選手権大会で３位入賞したことを報告するため、市長を表敬訪問しました。選手たちは、「仲間と一丸となって試合ができ、いい経験になった」と話していました。

豊寿園の移譲及び運営に関する基本協定書締結調印式　3/27（金）

本市と社会福祉法人愛美会（石川緊一理事長）が「四国中央市特別養護老人ホーム豊寿園の移譲及び運営に関する基本協定」を締結しました。協定には、豊寿園などの入所者及び利用者の処遇向上を図るため、愛美会が豊寿園などを適切に運営することに関して必要な事項が定められています。

～全国少年柔道大会出場の報告～宇摩柔道会　4/3（金）

石井新大くん（豊岡小学校６年）、高橋安未さん（中之庄小学校６年）、谷　希龍くん（妻鳥小学校６年）、高橋颯葉くん（中曽根小学校５年）、長田幸也くん（金生第一小学校５年）が、５月に行われる全国少年柔道大会の出場報告に市長を表敬訪問しました。市長は「全国大会で頑張ってきてください」と激励しました。

メルボルン国際親善野球大会に日本選抜として出場！　3/17（火）

オーストラリアのメルボルンで開催される国際親善野球大会に日本選抜として出場する吉岡桃子さん（中曽根小学校６年）が市長を表敬訪問しました。吉岡さんは、昨年６月に行われた第５回学童女子軟式野球全国大会で優秀選手に選ばれ、今回の海外遠征選手として出場することになりました。

第10回四国小学生ゴルフ選手権春季大会で優勝　3/18（水）

三島小学校６年生の香川大樹くんが、新居浜カントリークラブで開催された第10回四国小学生ゴルフ選手権春季大会において優勝したことを報告するため市長を表敬訪問しました。香川くんは「全国大会では四国の代表として頑張りたい」と力強く話していました。

三島高校吹奏楽部＆市民吹奏楽団スプリングジョイントコンサート　3/22（日）

福祉会館で三島高校吹奏楽部と四国中央市民吹奏楽団によるスプリングジョイントコンサートが開催されました。会場では、2015年度全日本吹奏楽コンクール課題曲や映画のテーマ曲などが演奏されました。和やかな雰囲気の中、団員たちは迫力ある演奏を会場に響かせ、訪れた観客を魅了しました。

～迫力ある演奏に拍手～川之江吹奏楽団スプリングコンサート　3/22（日）

市民会館川之江会館で、川之江吹奏楽団による第32回スプリングコンサートが開催されました。岩井直溥作品集と題し、氏の作曲や編曲による「アフリカン・シンフォニー」などを演奏し、訪れた観客は、総勢40人によって奏でられる迫力ある演奏を聴いて、楽しんでいました。

～交通安全母の会～新入学児童交通安全お守り贈呈式　4/9・14

金生第一小学校と三島小学校で、交通安全お守り贈呈式が行われました。これは、四国中央市交通安全母の会（西川康子会長）が毎年市内の小学校新１年生に「交通事故に遭わないよう、楽しく学校生活が送れるように」と願いを込めて、手作りのお守りを贈呈しているものです。

～防災力強化と危機管理体制の充実～消防防災センター竣工式　4/16（木）

消防防災センター竣工式が行われ、テープカットや救助訓練の様子が披露されました。このセンターは、防災拠点として、耐震、耐火などの構造上の基本性能を満たし、災害時の初動体制を確立できるための設備・機能を備えるとともに、避難支援拠点としての機能を有する施設として建てられました。

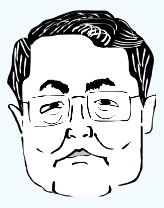
～春らんまん、行楽客でにぎわう～市内各地で桜まつり　4/5（日）

三島公園、城山公園、向山公園の３か所で恒例の桜まつりが行われました。会場では、お茶席やもち投げのほか、磐座太鼓演奏、讃州久米流古式砲術隊による火縄銃砲術演武、子ども相撲大会など多くのイベントが行われました。あいにくの空模様で肌寒い一日となりましたが、多くの行楽客でにぎわいました。

スポーツチャンバラ全国少年少女選手権大会で優勝　4/7（火）

市スポーツチャンバラ協会仁武館（河村直仁代表）の石川大雅くん（三島東中２年）が、第40回スポーツチャンバラ全国少年少女選手権大会「長剣フリー１～４級の部」で優勝したことを報告するため、市長を表敬訪問しました。石川くんは「今後の大会でも頑張っていきたい」と話していました。

市長のひとりごと



四国中央市長
篠原　実

テーマ
夏は来ぬ

さみだれの　そそぐ山田に　早乙女が　裳裾ぬらして　玉苗植うる　夏は来ぬ

これは、明治時代に、作詞佐々木信綱、作曲小山作之助により発表された「夏は来ぬ」という歌曲の二番の歌詞である。

田園の田植えの情景を歌ったものであるが、田植え機全盛の現代でも、懐かしさを持って心に沁みてくるものがある。

秋の黄金色に染まる田園風景も美しく、壮観ではあるが、私は、春の足跡のように、田んぼに水が入り、きらきらと初夏のお日さまに照らされて反射している田園が大好きである。そして、ゴールデンウィークも過ぎると、少しずつ、苗が大きくなり、緑の絨毯となって、やがて水面が見えなくなってしまう。

春から夏へ、そして秋になる日本の田園風景は、日本人の情緒を形成してきたように思う。

梅雨頃には、おふくろが近所のおばさんと一緒になって、定規をあてながら、田植えをしていたのが、今もありありと思い出される。

我々の年代以上の人間は、郷愁というのは、農業を含め、一次産業との関わりがあり、ともすれば、経済的側面ばかりで論じられる世相に若干の不安を持つのは当たり前のような気がする。

ただ、私は、そういう気持ちを持ちつつも、次の世代を背負って行かなければならない人間の足かせになってはいけないとも思っている。

頑固に守らなければならないものと、状況に応じて変革しなければならないものとの選択が、非常に難しい時代になったのは間違いないと思っている。